

■今月の特選句

2013年10月号

とんぼうに水平思考あるらしく

工藤泰子

新しい展開を求めて軽々と移動する蜻蛉に学ぶところは多い。「水平思考を形にしたる蜻蛉かな」「落ち着きの無さは格別赤とんぼ」。

百薬の長毒となる夜長かな

都吐夢

「百薬の長」は酒好きが考えた理屈。酒は飲み過ぎれば間違いなく毒水。「百毒の長を夫婦で酌み交はす」「毒水をちびりちびりと夜長かな」だね。

科捜検に回す証拠の放屁虫

西をさむ

被害者の鼻の曲がり具合も証拠とせねばなるまい。しかし、放屁虫の活用を考えて「サリンよりずっと安全放屁虫」と、シリア政府に進言しよう。

蛇穴に入り金運の遠ざかる

越前春生

蔵の米を狙う鼠を捕るのが蛇。だから蛇は裕福の象徴だ。縁起がいい。だからと言って「蛇穴を出で金運の近づき来」ということにはならぬ。

真実を少し曲げての夏化粧

森岡香代子

真実を曲げるとは、眉の位置を変えたり、鼻を高く見せたりすること。夏は汗をかくから厚塗りするとか。「化粧とは化けることなり肝試し」。

五合目から崩し始めるかき氷

金澤 健

「世界遺産に見立てて崩すかき氷」ですね。なぜ五合目なのか。シロップのしみ込んだところから山頂を目指すんだね。「五合目に雪洞を掘りかき氷」。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- 死にたいともらず割には夜食とる
・・・だからなかなか死ねないのだが
松尾軍治
- かき氷食べて真っ赤な嘘をつく
・・・ベロを出したら一目瞭然
ひがし愛
- 鬱の字をくずしては組む秋思かな
・・・頭の体操してゐるつてわけ
永島董玉
- 端居してうるさき声の隣家かな
・・・こちらの声も隣家に届き
久我正明
- 盆帰り元の二人に戻りけり
・・・仮面夫婦といふことですか
花岡直樹
- カーナビの探しあてない虫の宿
・・・携帯電話で尋ねてご覧よ
伊地知寛
- 盂蘭盆会仏ほっとけなる宗旨
・・・坊主の世話に終いにやなるに
伊藤浩睦
- 昼すぎの中途半端な酔芙蓉
・・・昼から盗み酒をしたかに
加藤 賢
- 焦点をぼかしながらの金魚の尾
・・・シャッターチャンスまるで決まらず
柳 紅生
- 逃げ水をごくごく飲む夢熱帯夜
・・・いくら飲んでも減る気配無く
高橋素子

燈下親し活字離れの一家族

・・・離ればなれにテレビゲームか

菅野あたる

適当が長寿の秘訣敬老日

・・・自分の齢もあやふやらしい

麻生やよひ

鉦叩十倍返しですきっと

・・・ちよつと待ちなよ耳栓はめる

足立淑子

■今月の滑稽句

	遺産あり遺言書けと道おしえ 難産の滑稽投句秋燈下	青木輝子 青木輝子
【佳作】	生身魂五体ぎくしゃく加齢病	青木輝子
	運悪き女のためにと牛蒡引く 秋天の富士に祝詞を述べたくて わが姓氏究められずに世は秋に	青山桂一 青山桂一 青山桂一
【佳作】	歴史的猛暑豪雨に命守る 動けば暑い飛び石傳ひ星仰ぐ 冷房は何時切るか「今でしょ」	秋月裕子 秋月裕子 秋月裕子
	芋嵐さながらサッカーサポーター 砂利道と言へど国道蕎麦の花	麻生やよひ 麻生やよひ
【佳作】	汚染水じわじわ滲みる秋の海 秋深し半沢直樹観るひとり	足立淑子 足立淑子
	すまし顔で踊る茶髪のおちゃっぴい 叩かれて見初められたる大西瓜 艶話とぼけてかはす生身魂	有吉堅二 有吉堅二 有吉堅二
【佳作】	寺の庭裸体かたどり紅葉かな セキレイのジョギング地藏も目を細め 吹きさらしななんとかなってる柿の艶	粟倉健二 粟倉健二 粟倉健二
	雁渡し転がしておく赤子かな 跡継がぬ俵に送る今年米 婚の使者松茸一荷提げてくる	飯塚ひろし 飯塚ひろし 飯塚ひろし
【佳作】	店先に放置自転車秋の風 石垣を見てよ見てよと萩の花 蓑虫の胸中揺れて揺れどうし	井口夏子 井口夏子 井口夏子
	背中の蚊早く叩いてと坐禅ぎやる 金髪茹蚣もあり道後の湯	池田亮二 池田亮二
【佳作】	秋の蚊の瞬間芸がヒーフーミー 皮が好きと剥き身の林檎に呟けり	石川節子 石川節子
	夜神楽の見せ場や大蛇立ちあがる 稲雀仲間はづれもありにけり	板倉肱泉 板倉肱泉
【佳作】		

	帰省子の泣く声聞こゆ夜となりて	板倉肱泉
【佳作】	珍味てふ蝗の眼にらみをり ダム工事迷ひし政治泡立草	伊地知寛 伊地知寛
【佳作】	提灯を借りる昏さも道灌忌 夏休俺晩学と云ふ子みて	伊藤浩睦 伊藤浩睦
【佳作】	今日もまた優柔不断メロン熟る 炎昼やムンクの叫びありぬべし 筆先にまかせる絵の具爽やかに	稲沢進一 稲沢進一 稲沢進一
【佳作】	泊まる子等蝉うるさいと騒ぎおり 暑きより寒しが好きと言うてみる 雨上がり庭には飢えた藪蚊待つ	井野ひろみ 井野ひろみ 井野ひろみ
【佳作】	一匹の蚊と付き合いて嬢の留守 遠雷の急に近づく老いの足 ジイ(爺)とニイ(兄) 蝉の男性合唱団	入江澄泉 入江澄泉 入江澄泉
【佳作】	迷ひ子のわたしを案内赤蜻蛉 清水の舞台に炎天の街眺む 蠅螂のフック船長虫逃がす	上山美穂 上山美穂 上山美穂
【佳作】	枝豆の膨らむ処抓みけり コップ酒一献差そうぞ虫の宿 転げ落つ屋根の雀が蛤に	氏家頼一 氏家頼一 氏家頼一
【佳作】	虫の声そろそろ遺書を書いとけと 指立てて赤とんぼの寄つて来ず	越前春生 越前春生
【佳作】	夕焼や羽を切られしフラミンゴ 野分中発電風車を守る人 再開発の並木にたわわ稲雀	大関のどか 大関のどか 大関のどか
【佳作】	実柘榴や朝も早から牙剥きて 魚沼の蝗の貌も貴族めき 星流るK子の夢は夢のまま	奥脇弘久 奥脇弘久 奥脇弘久
【佳作】	新涼の莫塵に臍おく又寝かな 蛍草散歩の犬の不法尿 盛大な漢(おとこ)のいびき秋暑し	笠 政人 笠 政人 笠 政人
	断層行きのバスに乗り込む浴衣かな	加藤澄子

【佳作】	町家風古き香の涼しきかな 秋雨はしゃぐ東京五輪の決定に	加藤澄子 加藤澄子
【佳作】	蟻地獄吾に不在のふりをする 社長さんと呼ぶから買はず笹の桃	加藤 賢 加藤 賢
【佳作】	台風も尖閣諸島を狙ってる すすきの葉触れば斬れる痴漢避け 終戦日ロシア兵墓地城の北	門屋 定 門屋 定 門屋 定
【佳作】	水面に河馬の半眼溽暑かな 溶けし人溶けし氷菓を一舐めす	金澤 健 金澤 健
【佳作】	いさぎよき蟬の様には生きられず なぜか皆口あけて見る大花火 猛暑日のガス台に立つ生きる為	川島智子 川島智子 川島智子
【佳作】	明日頼む閨に無月の窓明かり 引き際を忘れておりし竹の春	菅野あたる 菅野あたる
【佳作】	かき氷頭に抜けて髪立ちぬ 片陰の狭きところを蟹歩き	久我正明 久我正明
【佳作】	テノールもバスもかなかなかなかに コロケになる道程の大南瓜	工藤泰子 工藤泰子
【佳作】	愛し女輝きすぎて夏果つる 大喧嘩の友と肩寄せ大昼寝	黒田忠一 黒田忠一
【佳作】	空切っただけにやぶ蚊の落ちにけり 襟足を登るか細き蟻の足 うなぎでも食うかと男声高に	小泉花子 小泉花子 小泉花子
【佳作】	かりがねやいつもにこにこ現金払ひ ばつたんこ仲人口に水をさす ラスベガスその夜は月に逃げらるる	小林英昭 小林英昭 小林英昭
【佳作】	ご先祖もジェジェジェの百五十回忌 三本足なんだかんだとまだ動く 平和呆け内輪話で内輪揉	齋藤八兵衛 齋藤八兵衛 齋藤八兵衛
【佳作】	浴衣掛け娘のわに足闊歩せり 七五三語呂を合せて五七五 コスモスの乱交はげし色多彩	酒井鹿洋 酒井鹿洋 酒井鹿洋

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | 洗濯物喜びいさむ秋の空
行く夏をうらめしそうに空財布
幼児とかけっこいつの間に追いつけぬ | 佐藤義子
佐藤義子
佐藤義子 |
| 【佳作】 | 二十年後見据ゑ最後のお白石
御白石持ち御垣内爽やかに
降れば困るお白石持残暑中 | 佐野萬里子
佐野萬里子
佐野萬里子 |
| 【佳作】 | 秋暑し水も滴る男なる
秋声に呼びとめられて止まり木に
掛替えのなき人と居て肌寒し | 下嶋四万歩
下嶋四万歩
下嶋四万歩 |
| 【佳作】 | 富士塚を弾丸登山普段着に
あまちゃんの如蟬時雨じえじえじえじえ
逃げまはる西瓜のタネを探す舌 | 壽命秀次
壽命秀次
壽命秀次 |
| 【佳作】 | 美しきものは短命百日紅
結論は又もうやむや秋扇
休肝日又も破りし夜長かな | 白井道義
白井道義
白井道義 |
| 【佳作】 | どうしても蟬にはかなわない朝 昼 夜
日ぐらし蟬ありのままが好きだよ
戦争を知らない手の平サイズの南瓜 | 鈴木和枝
鈴木和枝
鈴木和枝 |
| 【佳作】 | 夜も涼し鍋に煮こんだ秋刀魚たべ
朝寒く着るもの迷いカタログ見
薄曇り手持ちぶさたに夕立に | 鈴木哲也
鈴木哲也
鈴木哲也 |
| 【佳作】 | 減量は明日からにして食の秋
器量まで言わぬが花よ破れ傘
敬老日酔いがまわれれば同じ唄 | 高田敏男
高田敏男
高田敏男 |
| 【佳作】 | 肩すかしうれしかなしの野分かな
帰省子になってほしいよ引きこもり
夏一日善人となる日本人 | 高橋きのこ
高橋きのこ
高橋きのこ |
| 【佳作】 | 何もせずおり帰省子を見送って
梶子に目鼻の付いて香りそむ | 高橋素子
高橋素子 |
| 【佳作】 | 雲の湧く湧く雲の影秋の色
星流れ金米糖のいたづらか
犬の往く影長くのび十三夜 | 田中章子
田中章子
田中章子 |

	八月や富士の話題のつきぬなる	田中 勇
【佳作】	法師蟬観音経を挙げるなる	田中 勇
	初秋や我の何かをかきたてる	田中 勇
	コンビニの立ち読み増ゆる日の盛り	田中早苗
【佳作】	帰省子の益々親に似てきたる	田中早苗
	蠅叩き蠅の哄笑響きくる	田中早苗
	のら猫の屋根で眺むるいわし雲	田村米生
【佳作】	長き夜の二度寝の夢は別の人	田村米生
	障子張りあだこうだと手より口	田村米生
	蝉取りは昔の遊び今ゲーム	津田このみ
【佳作】	樹下涼し野良猫に場所取られたり	津田このみ
	大口を開けて見上げる大花火	津田このみ
	秋彼岸水より薄き四親等	都吐夢
【佳作】	ままならぬ老後の暮らしふかし諸	都吐夢
	かなかなに長い一発放屁かな	飛田正勝
【佳作】	相部屋は一人一畳夜の秋	飛田正勝
	物理的に子には頼れぬ敬老日	飛田正勝
【佳作】	名月に左舷重たき屋形舟	永島董玉
	満腹の目蓋に燈火親しくて	永島董玉
	侘しさの宴の後のきりぎりす	西をさむ
【佳作】	螻蛄の雌夫を偲んでじいと鳴く	西をさむ
	輝ける団栗地藏にそっと置き	花岡直樹
	今年また箆筒に縮む子の浴衣	花岡直樹
	かき氷をんなこどもにあひ混じり	原田 曄
【佳作】	尾を振つて寄り来る金魚三年目	原田 曄
	狗尾草さんざ遊ばれ捨てらるる	原田 曄
	名句とはメイキャップとよ白粉花	ひがし愛
【佳作】	生きていだけで褒めらる生身魂	ひがし愛
【佳作】	沖縄に避暑に行つたる大阪人	久松久子
	秋茄子五十個百円に馬鹿力	久松久子
	背負はれぬリュックの西瓜どないせう	久松久子
【佳作】	鶏頭花咲きつつ種をこぼしつつ	日根野聖子

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| | 美しく雲を燃やして秋夕焼
珈琲の香を満たし秋の夜 | 日根野聖子
日根野聖子 |
| 【佳作】 | ほつかむり女装に踊り囃す声
瓢箪のバストウエストヒップの線
交尾せし背負ひポーズの雌とんぼ | 藤岡蒼樹
藤岡蒼樹
藤岡蒼樹 |
| 【佳作】 | 猛暑には無駄な抵抗やめてゐる
夏瘦といふより彼の夏太り
疲れてる時の友達団扇かな | 藤森荘吉
藤森荘吉
藤森荘吉 |
| 【佳作】 | 天高く葡萄は白く粉をふく
かなかなかな聞いてゐますかおとうさん
居間広し燕は吾を置きざりに | 藤原セツ子
藤原セツ子
藤原セツ子 |
| 【佳作】 | 朝霧にすつくと立ちて吾亦紅
オリンピック秋暁に決まりけり
秋明菊ピンクのひとつ咲きにけり | 松井寿子
松井寿子
松井寿子 |
| 【佳作】 | 酷暑告げ含み笑ひの予報アナ
独り身を窺ひに来る油虫
陽に晒す臍に止まりし赤とんぼ | 松井まさし
松井まさし
松井まさし |
| 【佳作】 | かろうじて夫婦のかたち彼岸花
くの一も鼠小僧も夜なべかな | 松尾軍治
松尾軍治 |
| 【佳作】 | 文月や言の葉軽き大臣(おとど)また
秋立つ日チゲ鍋のごと天滾る
熱帯夜三途の闇を怨歌逝く | 丸山絃一
丸山絃一
丸山絃一 |
| 【佳作】 | 名月や二言三言のち無言
青すじを立て雲隠れせし蜥蜴
山積みの無縁墓石や曼珠沙華 | 三塚不二
三塚不二
三塚不二 |
| 【佳作】 | 般若経余白にメモる夏予定
熱帯型となる私の汗の穴
もも啜る電話携帯出ませんよ | 三橋百笑
三橋百笑
三橋百笑 |
| 【佳作】 | 座り胼胝出来ても正座夏座敷
マネキンのなれの果てなる案山子かな
炎天下夢遊病者の如くあり | 宮森 輝
宮森 輝
宮森 輝 |
| 【佳作】 | 二百十日路地から消えし餓鬼大将
野分中市中見廻鴉組 | 百千草
百千草 |

	くつがなる歌うて帰る赤のまま	百千草
【佳作】	水道やおまえも夏の水になり 洗ひ髪少女のやうにとかしつつ	森岡香代子 森岡香代子
	故郷へ孝行野球汗涙 元の気で食欲愛欲生身魂	森 要 森 要
【佳作】	戦中派同期の桜秋も咲く	森 要
	傍題にゲリラを加へむ秋出水 アイスコーヒーホットコーヒに更衣 延命や絶滅危惧種の鰻喰ひ	八木 健 八木 健 八木 健
【佳作】	筆順の這ひずり廻る蚯蚓書き 五月蠅くて難讀字也鼈甲蝨 歳時記の終のしまひや吾亦紅	八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑
【佳作】	遺伝子の初期化して欲し運動会 狸より狐に似たる裸(からだ)欲し	柳 紅生 柳 紅生
【佳作】	絵手紙は巨大松茸男子より 柔らかなぶらり「あけび」の門構え 金木犀僧侶転じて牧師なる	柳澤京子 柳澤京子 柳澤京子
【佳作】	夏風邪の忘れ形見や無精髭 水増しと罪に問われぬかき氷 暑くともよし毎日がビールの日	山下正純 山下正純 山下正純
【佳作】	気忙しく今年も早めに霊迎 拝みけりお風呂の窓の盆の月 原爆の花と呼ばれて夾竹桃	山本けい子 山本けい子 山本けい子
【佳作】	こちら向きオランウータン西瓜抱く とんぼうに何処から来たか問うてをり 目の化粧上手なこたち秋祭	山本 賜 山本 賜 山本 賜
【佳作】	若草へ放つ小便小僧どち 叱られて水鉄砲のテロとなる 男とてついに日傘やかんかん晴れ	横山喜三郎 横山喜三郎 横山喜三郎
【佳作】	ステテコで全て用足す隠居かな メッチャ暑し四国四万四千一度 老いてなほ夢捨て切れず雲の峰	渡辺さだを 渡辺さだを 渡辺さだを